

年頭所感



新年挨拶

おおさか市町村職員研修研究センター所長 齊藤 慎

平成21年の年頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。
皆様には、良き新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年上半期には、大阪府内あるいは隣接県に大型工場立地が決まるなどの将来に向けての明るい話題が久しぶりにありました。たとえば、1,000㎡以上の工場立地件数が関西圏域で140件程度もあり、他地域に比べてかなりの高水準となりました。この大きな要因として、地方自治体による立地促進制度も挙げられるでしょう。これらにより、大阪を中心とする関西の経済活動を今後活発化させる効果が期待されます。

一方で、大阪を含め日本経済がようやく順調な回復軌道に乗ったかと感じられた途端の「サブプライム・ショック」（2007年03月中旬）とそれに引き続く、世界的な金融システムに対する信頼性の低下及び株価下落の波及等により世界的な不況が心配されています。少し前に出されたIMF経済見通しでも、前提条件付きながら、「（前略）世界不況となる可能性が25%ある」とされております。

日本でバブル経済が崩壊し、「失われた10年」からようやく立ち直りつつあった矢先に、今度はアメリカで「住宅バブル」が崩壊し、その影響が世界的に広がろうとしている現状を見ると、人間の「知恵」の限界を感じざるを得ません。

1883年にイギリスで生まれたケインズ（John Maynard Keynes）が、後にケインズ政策と呼ばれる基礎となる『雇用・利子および貨幣の一般理論』を書いたのは、1930年代の大不況の最中の1935年といわれています。この考え方がニューディール政策として実施されアメリカ景気回復のために役だったことはよく知られている通りです。公共部門による有効需要創出政策は「ケインズ革命」と呼ばれるほどエポック・メイキングなものであり、いろいろな国において景気変動を平準化するために用いられ、一時は景気変動を、まるでテレビの色合いを調整するように微調整することも可能ではないかと考えられるまでになりました。今考えると、景気が順調に推移していた時代の産物と考えざるを得ません。

しかし、当然のことながらケインズ政策には副作用もあり、その最たるものが借金（公債）の累積です。よく知られているように、ケインズ自身は、ハーベイロードの前提といわれる、賢人が合理的に政策実施を判断する、ことを前提としていました。しかし、民主主義的意志決定では、好況時においても財政状況改善が後回しにされがちなため、公債残高が累増し、ハーベイロードの前提は結果として適合しなかったといえます。このことは社会科学における新たな知見が、公的部門の支出に依存する人々や企業

をうみ出すなど、行動を変化させ、その結果として知見の効果を発揮できなくさせるという面で大変興味深く、また考えさせられることといえるでしょう。

これからはマクロ的には困難が予想される時代ですが、そのような時代であるからこそ、地域のあり方、あるいは地方自治体と個人の関係が変わらざるを得ないのではないかと思います。人々の価値観は主として市場経済的な評価から構成されており、それに公的部門の価値観が付随しています。両者とも「円単位」ですべてのものを計ろうとし、たとえば、地域にとってかけがえのない環境や土地に対しても同様に思えます。しかし、自分たちの地域を主体的に創るためには、場合によっては市場経済的な価値観では計れない異なった価値観が必要となります。たとえば、自分の貴重な時間を投じてでも地域のために何かを行おうという場合、あるいは地域にとってどうしても必要な環境を守るための投資資金調達のために地方債が発行される場合には市場と異なった価格がつく可能性があります。現実には、それほど大きな規模ではないですが、低い利回りにもかかわらず住民に購入されている地方債（住民参加型ミニ市場公募地方債）があります。まだそれほど普及しているとはいえ、また「金融商品取引法」施行により事務負担が増加するなどの悪条件もありますが、今後に期待したいと思います。

このように、地域に住む人々が自発的に自分の住む所をよくしようとする気持ちは金銭だけでは測れないのです。地域の魅力とは、そこに住む住民が持つ「おいしいれ」がその源泉となります。

現在のように国際化・情報化した社会経済では、人やモノの交流・流通が盛んになり、居ながらにして世界の情報が手に入るようになると、地域のことが重要でないように感じられるかもしれません。しかし、逆説的に聞こえるかもしれませんが、そのような時代だからこそ、住む地域とその魅力が重要になると考えられます。もちろん、魅力とは、本来的に多様なものです。「地球規模で考え、地域的に行動する（think globally, act locally）」という言葉が象徴するように、生活と経済活動は本来地域的なものだからです。

また、逆に言えば、困難な時代であるからこそ、ケインズ革命に匹敵するほどの新たなアイデアや発想の転換が求められているといえるのではないのでしょうか。

最後になりましたが、本年が素晴らしい年となりますよう心からお祈り申し上げますとともに、皆様方のご健勝とご多幸を祈念致しまして年頭のご挨拶といたします。